

地域おこし協力隊 通信 VOL.76

お問い合わせ先
(観光振興) 企画政策課 企画政策グループ
電話 5-1114 告知端末機 5-8814
(集落支援) 地域おこし協力隊問寒別事務所「ほっと」
電話・告知端末機 9-7367

集落支援担当 中井正幸隊員



北海道内にまん延防止等重点措置が適用される少し前のこと、問寒別生涯学習センターにて「といかん本音トーク」と題し、今の問寒別とこれからの問寒別について参加者からお話をお聞きする懇談会が多世代、各々のライフスタイルに合わせて参加しやすいように、午前から夜まで複数回に分けて開催されました。

初の試みということもあり、参加者が集まるかどうかという一抹の不安もありましたが、当日は多くの参加をいただきました。

懇談会では季節がら、約20年前に終了した「問寒別酪農冬まつり」の話となり、当時の活気を思い出しつつ語られました。また、問寒別のこれからの行事のあり方や地域活動の維持について様々なご意見をいただきました。

今年は住民懇談会を繰り返し開催する予定となっておりますのでまたのお越しをお待ちしております。多くのご参加ありがとうございました。



観光振興担当 貞廣拓哉隊員



皆さんこんにちは、地域おこし協力隊の貞廣です。

1月29日(土)に行なわれた、幌延町教育委員会主催のふるさと自然体験チャレンジ教室「スノートレッキング」に今回もスタッフとして参加しました。「スノートレッキング」とはスノーシューを装着しながら雪上を歩くハイキングのことで、子どもから大人まで初心者でも楽しめる冬のアクティビティの一つです。講師として、幌延町生涯学習アドバイザーである富士元 寿彦氏をお迎えし、冬に見られる動物や冬の自然の楽しみ方などについて教えていただきました。

コースは金田心象書道美術館の裏側からふるさとの森の展望台を經由し、総合体育館まで歩きます。ふるさとの森の展望台ではひと休みをし、参加者がそれぞれ持参したあったかい飲み物やお気に入りのお菓子を食べながら、展望台から見る町の雪景色を楽しんでいました。この日は朝から雪が降り積もってしまったため動物の足跡を見ることは叶いませんでしたが、誰も歩いていないふかふかの新雪を歩くという「非日常感」を堪能できたスノートレッキングでした。



そり滑りを楽しんでいる様子



説明を受ける参加者の皆さん